

信 愛 望

山形学院高等学校

山形学院だより

第9号

2018. 2. 21

文責・佐藤圭

第39回ユニセフ『ハンド・イン・ハンド』街頭募金

ボランティア部の活動を紹介します。

2017年12月23日(土) 13:30~14:30、山形市七日町ほっとなる広場にて、ボランティア部が街頭募金活動を行いました。募金活動の開始から終了までの間のみ雨降り、という不思議な天候の中でしたが、東ティモールの子どもたちのために、1年生3名・2年生5名・3年生1名の計9名で参加しました。この日全体では30,211円のご協力を頂き、雨の中でもお金を入れてくださった方々に感謝の思いでいっぱいです。



[外は寒くても、心はあたたかになりますね]

東北大会・県高校新人大会の結果

全国高校バドミントン選抜大会東北地区予選会〔1月18日(木)~21日(日)：新青森県総合運動公園〕で行われ、1回戦：聖和学園高校(宮城)と学校対抗戦を行い0-3で敗退しました。女子バドミントン部は11年ぶりの東北大会出場となりました。また、東北高校放送コンテスト岩手大会〔2月3日(土)~4日(日)：岩手県公会堂〕に放送部の寒河江瑞希(2年2組)さんがアナウンス部門に出場し惜しくも決勝進出はなりません。県高校新人大会・バスケットボール競技〔1月13日(土)~14日(日)：県体育館/山形中央高〕、バレーボール競技〔1月20日(土)~21日(日)：山形中央高・県体育館/県総合運動公園〕が行われました。男子バスケットボール部、女子バレーボール部がベスト8に入りました。ご声援ありがとうございました。

<東北大会>

○女子バドミントン部

1回戦 本校 0-3 聖和学園(宮城)



○放送部(アナウンス部門)

寒河江瑞希さん(2年2組) 決勝進出ならず

<県新人大会>

○男子バスケットボール部《ベスト8》

1回戦 本校 95-68 米沢中央

準々決勝 本校 76-110 鶴岡工業

○女子バスケットボール部

1回戦 本校 68-78 酒田光陵

○男子バレーボール部

1回戦 本校 2-0 酒田東

2回戦 本校 0-2 山形中央

○女子バレーボール部《ベスト8》

1回戦 本校 2-0 鶴岡中央

2回戦 本校 2-0 九里学園

準々決勝 本校 0-2 米沢中央

山形学院高等学校 **第8回文化部合同展示会を開催!** <華道部・美術部・書道部>

文化部合同展示会を2月16(金)~18日(日)にかけて、本校の華道部・美術部・書道部の3つの部が合同で県芸文美術館(AZ七日町)を会場に開催しました。展示作品の一つひとつは、華道部8名、美術部7名、書道部4名の日頃の地道な活動の成果で、一年間の集大成として展示しました。3日間延べ150名の来場者がありました。これからの活動にもご注目ください。

☆進路状況について☆

<2018.2.19 現在>



進路	種別	総合普通科 (132名)	情報創造科 (38名)	食物調理科 (93名)	在籍 (263名)
進学	大学	32	6	6	44
	短大	14	0	5	19
	専門	42	12	15	69
就職	就職	33	18	53	104
	縁故	2	1	9	12
	公務員	4	0	1	5
	未定	0	0	0	0
	合計	127(5)	37(1)	89(4)	253(10)

進学内定率
97.1%

就職内定率
94.5%

【進学について】

大学や短大希望者はほぼ推薦入試（指定・公募・AO）で合格しています。今年度も同盟校を中心に多くの推薦をいただいています。公募制推薦では小論文を課す大学が多いのですが、看護や栄養関係では学科試験をとり入れる大学が多くなっています。短期大学は幼児保育系、栄養系の希望が多いようです。専門学校は医療関係の希望者が多く、県内の看護学校、理学療法・作業療法の学校に合格しています。しかし、医療関係を目指す場合はある程度の学力を必要としていますので、評定平均値で推薦基準に満たないなど選択の範囲が限られる場合があります。専門学校は動きが早い为学校選択など慎重にしなければなりません。

【就職について】

県内の高卒求人数は増加しています。そのため1回目の試験で内定をいただく生徒が例年より多く、内定率がいいようです。一方で希望する職種の求人が少ない（ない）こともあり、受験する企業を決めるまでに時間がかかった生徒もいました。県外希望者は県内志向が強く年々減少しています。公務員合格者は自衛官5名。就職試験は筆記試験（一般常識問題やSPI）、作文、面接が中心となりますが、学科試験を重視する企業もあれば、面接を重視する企業もあります。進路研修や試験前の面接練習を行っていますが、普段の生活から明るく元気にあいさつや受け答えができるようにしなければなりません。

内閣府主催 **家族や地域の大切さに関する作品コンクール** 手紙・メール部門 **優秀賞!**

「『父の背中』」 志鎌 蓮さん（2年4組）

私が六歳の時、母は病気で急死しました。母と話した最後の時を私は今でも忘れられません。小さいころから母を亡くした私は、母の日や学校で行われる行事、お母さんと仲良くしているほかの家族を見ると、うらやましくて、さみしくてしかたありませんでした。ですが、そんな気持ちをなくしてってくれたのが父でした。父は男手一人で私と姉を育ててくれました。私のさみしさに気づいた父はその日からいつも笑顔で接してくれて、私のさみしさはいつのまにか消えました。

小さいころから、ゴルフや空手、そして今も続けている野球などやりたいことはなんでもやらせてくれました。いつも夜遅くまで仕事をし、弁当を作ってくれたり、車でおくりむかえしてくれたり、絶対毎日つらいのに私の前ではいつも笑っています。私はそんな父の姿を見て、自分もこんな父親になりたいと思いました。私を産んでくれた、父、母に感謝しています。ありがとう。

【審査員のコメント】

吉田 穂波 委員(神奈川県立保健福祉大学 准教授 医師・医学博士・公衆衛生修士)

お父さんが頑張って、こんなに明るい家庭を作っていることが励みになりました。お弁当やお迎え、笑顔のエピソード、どれひとつとっても素晴らしく、男の子に「自分もこんな父親になりたい」と思わせるお姿を、同じ親として尊敬してしまいます。

坂元 章 委員(お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授)

母親を亡くし、父親に育てられた高校生が切々と感謝を述べています。父親の人格は温かく立派であり、筆者による感謝や尊敬を説得力あるものにしてしています。父親だけでなく、「父、母に感謝しています」という末尾の文には感嘆しました。